

生野銀山へくぐり楽しむ

生野銀山で、力自慢がトロッコで競い合う

生野銀山へいくろう祭りが、4月15日、史跡生野銀山で開催されました。

多くの屋台が並ぶ中、沖縄エイサー踊り、太鼓や民謡などの多彩なイベントが行われ、訪れた人を楽しませていました。

中でも、銀や錫・天然石のすくい取りなど、生野銀山にちなんだ体験コーナーでは、参加した親子連れなどが一生懸命砂の中から、銀、錫を探していました。

へいくろう祭り恒例の「全日本トロッコ力自慢選手権大会」では、小学生、一般女性、一般男性の3部門に別れ、小学生と一般女性はトロッコ1両(555キロ)、一般男性はトロッコ2両(1100キロ)を、傾斜約10度のレール上で30秒の間にどこまで引けるかを競いました。

参加者は大勢の観客の声援を受け、歯を食いしばりながら懸命にロープを手繰り寄せていました。

必死にトロッコを引っ張る参加者



声

「全日本トロッコ力自慢選手権大会」(一部)小学生の部優勝
仲本沙和子さん(大阪府岸和田市)

朝来市は初めて来ました。お祭りに参加して、優勝までできてとてもうれしいです。



実行委員長
北川輝雄さん(生野新町)

今年8回目です

が、マンネリ化しないようにいろいろと考えました。生野銀山開坑1200年ということで、それにあやかっただけをやるとうと実行委員会と相談して「全日本トロッコ力自慢選手権大会」を公認競技ということにしました。



また、子ども用に「こども広場」を設けて、「サンドラ」を使った遊びを準備しました。「サンドラ」というのは昔、坑内で坑夫が作業中、座布団代わりに敷いていた、米俵の上と下についていたふたのようなものです。それで子どもたちに遊んでもらい、昔のことを少しでも知ってもらおうという試みで今年初めて行いました。

今年は今ままで一番人が多かったと思います。この祭りは継続して今後も続けていきたいものです。

生野もりあげ隊

「生野銀山開坑1200年」をもりあげたい!

現在、生野もりあげ隊の皆様は、「1200人とフリーハグ」に挑戦中。これは、「生野銀山開坑1200年」にちなみ、「1200人」とハグ(抱き合うこと)し、子どもからお年寄りまでみんなに「開坑1200年」をもっと知ってもらおうと始めたもので、いろいろなイベントに向いて行っています。

協力者には記念のステッカーを配布してさらに1200年をPR。今年の1月から始まり、8月に開催予定の「生野夏物語」までの達成を目指して取り組んでいます。

イベントで見かけたら、みなさん協力お願いします!



入館者20万人を達成

あさご芸術の森美術館

平成11年にオープンしたあさご芸術の森美術館の入館者数が4月16日、20万人を突破しました。

20万人目の入館者となったのは、加古川市の仁科こいさん。家族や知り合いとともに同館を訪れました。

水田館長から記念品として朝来市在住の平面造形作家、椿野浩二さんの作品などが贈られました。仁科さんは「この美術館には初めて訪れました。思わずプレゼントをいただき、とてもうれしいです。いい思い出になりました。」と感想を話していました。

20万人目の入館者となり、花束を渡される仁科さん(右)

